

研究論文

「自主創造の基礎」に始まる初年次教育が 薬学生のアイデンティティと目標設定に及ぼす影響

竹安 智広^{*1)}, 田中 佐知子¹⁾, 元吉 尚美¹⁾, 齋藤 弘明¹⁾丹羽 典朗¹⁾, 林 宏行¹⁾, 石毛 久美子²⁾¹⁾ 日本大学薬学部, ²⁾ 日本大学理工学部

The Influence of First-year Education and a “First-Year Seminar” on Student Pharmacists’ Identity and Setting of Goals

Tomohiro TAKEYASU¹⁾, Sachiko TANAKA¹⁾, Naomi MOTOYOSHI¹⁾, Hiroaki SAITO¹⁾Norio NIWA¹⁾, Hiroyuki HAYASHI¹⁾, Kumiko ISHIGE²⁾¹⁾ School of Pharmacy, Nihon University, ²⁾ College of Science and Technology, Nihon University

First-year students in the School of Pharmacy are expected to learn about and practice Nihon University’s educational philosophy “The Spirit of Independent Creativity” by taking the course “First-Year Seminar”. The aim of this course is to cultivate a desire to learn and help students to better understand the characteristics of their own school. In this study, we analyzed the in-class reflection surveys conducted during the start-up and TARGET1 of a “First-Year Seminar” course as well as the reports submitted at the end of the course. Regarding the questionnaires conducted after each session, more than 90% of the responses were positive. These findings show that students understand our university’s merits and a learning attitude. Their reports were further analyzed using text mining, and then three categories identified as necessary qualities for a pharmacist were “responsibility as a pharmacist,” “communication skills,” and “correct knowledge.” In the other question about necessary qualities to be a pharmacist, two categories emerged: “acquiring communication skills” and “acquiring knowledge”. These results suggest that the “First-Year Seminar” in the first semester of the first year contributed to the formation of their identity as both Nihon University students and student pharmacists. Moreover, through an understanding of the professional roles of pharmacists, these programs also contributed to the students’ setting of goals and an increase in their motivation to learn.

キーワード：薬学生, 目標設定, 動機づけ, テキストマイニング, 自主創造の基礎

Keywords:

Pharmacy students, Goal setting by students, Motivation, Text mining, First-Year Seminar

緒 言

日本大学においては現在、学部を問わず全学共通教育科目として「自主創造の基礎」（日本大学、2023）が設置されている。「自主創造の基礎」は、平成26年度に日本大学全学共通初年次教育科目としてスタートした「自主創造の基礎1」及びその後に関講された「自主創造の基礎2」を再構成し、令和4年度に関講さ

*E-mail: takeyasu.tomohiro@nihon-u.ac.jp

投稿：2024年10月25日

受理：2025年1月26日

れた科目であり、日本大学の教育理念「自主創造」を理解し、学部・学科を問わず日本大学の学生（日大生）として共通に身につけるべき学修姿勢やスタディースキルを涵養することを目的としている。

渡邊らの研究（2007, 2018）では、大学教育の学修姿勢は「教えてもらう」に象徴される教師主導型学修（Teacher-Directed Learning：TDL）から、「学ぶ」といった自己主導型学修（Self-Directed Learning：SDL）への切り替えが必要であることが示唆されている。また、文部科学省（2020）は入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする支援を初年次教育の取り組みの1つとして掲げている。2022年にもほぼ同様の支援を初年次の教育内容として掲げており（文部科学省（2022））、この時期に学生自身が目標を立て、目的意識を持って様々なことに取り組むマインドを育成することは、有意義な学生生活のスタートに必須の過程と考えられる。「自主創造の基礎」には、初年次教育において重要であると考えられる上記の内容が取り入れられている。

各学部における「自主創造の基礎」の授業設計は、日本大学学務委員会、全学共通教育初年次教育検討ワーキンググループによって作成されたガイドライン（日本大学, 2023）を参照して行われ、ガイドライン中には標準授業モデルも示されている。前期15週にわたる「自主創造の基礎」は、第1週のスタートアップ、TARGET1：日大生としてのアイデンティティ（第2～5週）、TARGET2：コミュニケーションとインクルージョン（第6～9週）、TARGET3：論理的・批判的思考とアウトプット（第10～14週）、及び、総括・振り返り（第15週）から構成されている。日本大学（2017）では、平成19年に教育理念の「自主創造」、平成28年に自主創造を実現するための道標である「日本大学教育憲章」を制定し、「自主創造の基礎」の授業では、全体を通して様々な場面でこれらに関する内容が盛り込まれている。スタートアップ及びTARGET1において、まず大学生として自主的に学ぶことの重要性を学修する。また、日本大学について様々な角度から概観することで、総合大学としての日本大学を知り、本学で学ぶ意義や所属学部・学科の特色を理解し、卒業後のキャリアをイメージしつつ在学中の目標設定を行う。TARGET2においては、所属学部の授業でコミュニケーションスキルの具体例を体験後、「日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）」で複数学部の学生とグループワークを行う。N-MIXは学生にとって、学部の垣根を越えた交流により多様な価値観に触れる機会となり、日本大学マインド（日本大学, 2017）の「多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力」の礎となるセッションである。TARGET3では、グループ毎にプレゼンテーションを行う。グループワークによりテーマを決定し、資料作成や発表準備等の過程における多角的・論理的・批判的思考を錬成し、プレゼンテーションの機会を通して他者へ伝える力を養う。第15週には全体の振り返りを行うが、ここでは自己評価をした上で学生自身のその後の学生生活の目標を定める。

本学の薬学部は1学部1学科体制である。全学生が6年制の教育カリキュラムを履修し、卒業時には国家試験を受験、薬剤師の資格を得て社会に出ることを目指している。卒業生の多くは、病院、薬局あるいはドラッグストアに薬剤師として就職するが、一部は行政機関、医薬品関連企業、研究機関など就職先は多岐にわたる。大学での学び（大学卒業）が薬剤師という国家資格取得及び職業に直結すること、一方で就職先は多岐にわたることが薬学部の特徴の1つである。また、将来の薬剤師を育成する薬学部は非常に専門性の高い学部であり、各大学が共通に教育すべき内容が「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」（文部科学省, 2023a）として提示されている。それに沿ってカリキュラムを構成することも薬学部の特徴の1つである。現在、薬学教育の問題の1つとして、6年間で卒業できない学生の存在が挙げられている。文部科学省（2023b）の報告では、令和元年度に国公私立大学に入学した薬学生の約23.4%が5年次に進級するまでに留年、休学、退学を経験すると推測されている。本学部においても令和元年度の入学生の15.8%（41/259）が5年次までに留年、休学、退学のいずれかを体験する結果となっている（日本大学, 2024）。退学の理由は経済的な場合もあるが、学修意欲の低下とその後の学力不足の場合も多い。入学後、学修意欲の低下を来す学生にとっては、初年次教育等において、学修意欲向上を促すことが特に重要となる。

薬学部では、「自主創造の基礎」を必修科目として設置しており、授業はガイドライン（日本大学、2023）の標準授業モデルにはほぼ準拠して実施している。学部・学科を知る第4～5週に関しては、第4週で薬学部の特徴的な施設である薬用植物園の見学を行い、薬学部生であることを改めて意識させるとともに、第5週で卒業後のキャリアをイメージするために「薬剤師」をキーワードにしてグループワーク等を展開している。学生が6年間で卒業し国家試験に合格するためには、薬学部の特徴を理解した上で、初年次から「薬剤師になる」という高いモチベーションを持って学修を積み重ねていくことが重要であり、「自主創造の基礎」の第4週～5週のプロプログラムは、薬学生として、実り多い学生生活を送るためのスタートとして有意義であると考えられる。しかし、「自主創造の基礎」が学生生活のスタートに及ぼす影響についての検討はされていない。

そこで、本研究では、「自主創造の基礎」におけるスタートアップ及びTARGET1での振り返りアンケート及び第15週終了時に薬学部独自に実施したレポートを分析することで、「自主創造の基礎」が日大生及び薬学生としてのアイデンティティ形成や目標設定に及ぼす影響について検討した。

1 方 法

1) 授業内振り返りアンケートの分析

2023年度「自主創造の基礎」の第1週～5週までの授業毎の振り返り及び第5週のTARGET1の振り返りのうち、4件法で実施したアンケート部分（Google formsで回収）を、Microsoft Excelを用いて単純集計した。集計には、同意の得られた232名のデータを用いた。各週の授業やアンケートは、本部ガイドラインに沿って実施しているが、学部毎の特色を生かす授業回も含まれるので、実施内容及びアンケート内容を表に示した（表1及び表2）。なお、授業では記述式の振り返りシートの授業内提出も求めたが、非常に簡

表1 授業内容

	概要	内容	授業時間内の振り返り
第1週	スタートアップ	本科目の意味や意義、位置付けについて理解する。グループワーク及び個人ワークを通じて大学生としての学びの在り方について理解する。	4件法のアンケート* 振り返りシートの記載
第2週	日本大学を知る①	日本大学の歴史や教育理念である「自主創造」に関して理解する。入学の動機を振り返り、社会で活躍する先輩の動画メッセージを視聴した上で、社会で活躍する日大生について調べる。	4件法のアンケート* 振り返りシートの記載
第3週	日本大学を知る②	総合大学としての日本大学スケールメリットを理解して、日大生として学ぶ意味や意義について考える。先輩（在学生）からの動画メッセージを視聴した上で、グループワークで感想をシェアし、自身の在学中に達成したい目標を設定する。	4件法のアンケート* 振り返りシートの記載
第4週	薬学部を知る①	薬学部を知るために薬用植物園の見学（フィールドワーク：学部施設の見学）。前半は、生薬学研究室員の解説を聴きながら、薬学部の特化した施設である薬用植物園を見学する。また、植物観察を行う。後半は、各自が興味を持った施設や植物を見学する。見学した施設及び植物に関する簡単な観察記録を振り返りシートの代わりとして提出させた。	4件法のアンケート*
第5週	薬学部を知る②	グループワーク及び個人ワークで六年制薬学部の学びの特徴を理解し、キャリアプランを策定する。公益社団法人日本薬学会が新入生のために発行している「これから薬学部を始めるあなたに」を事前配布し、薬学教育の概要を知ることが事前学習課題としている。授業ではグループワークで薬学部生に求められる資質（ワークシート）を考え、個人ワークでキャリアプランの策定を行う。	4件法のアンケート* 振り返りシートの記載
		TARGET1の振り返り	4件法のアンケート*

* 4件法アンケートの内容は表2に示した。

表2 振り返りアンケート内容

第1週スタートアップの振り返り
設問1 大学生としての在り方について理解し、説明することができますか
設問2 本科目の意味や意義、位置付けについて理解し、説明することができますか
第2週日本大学（本学の特色）を知る①の振り返り
設問1 自身の本学への入学動機や理由について、適切に振り返ることができましたか
設問2 本学の特色を理解し、説明することができますか
第3週日本大学（日本大学のメリット）を知る②の振り返り
設問1 日本大学のメリットを理解し、説明することができますか
設問2 在学中の大まかなビジョンを描くことができましたか
第4週薬学部（薬用植物園について）を知る①の振り返り
設問1 薬用植物園の特徴を理解し、説明することができますか
設問2 薬用植物園の施設・設備とその利用方法について理解することができましたか
第5週薬学部（学部の特徴）を知る②の振り返り
設問1（今週の振り返り）薬学部の特徴を理解できましたか
設問2（今週の振り返り）卒業後のキャリアをイメージし、在学中の目標を具体的に設定することができましたか
TARGET1の振り返り
設問1 薬学部の特色を理解し、在学中の学びの意識を高めることができましたか
設問2 提示された事前学修や事後学修を実施しましたか

単な記載（単語のみや短文）が多かったため、教員はフィードバック（翌週の開始時に数分のコメント）のためにすべてに目を通したが、分析対象とはしなかった。

2) レポートのテキストマイニング分析

第5週の振り返りでは、表2に示したような項目に対し、自由記載による回答を求めている。これらの項目は、薬学部に合うように表現は変更しているが、本部から提示された振り返りシートの趣旨を踏まえた内容である。また、授業中には、「薬学部生に求められる資質」について自身の考えをワークシートに書いた後にグループディスカッションを行い、ワークシート及び振り返りシートを提出させている。しかしながら、その回答は明確なビジョンとは言い難いものであった。ワークシート及び振り返りシートは、授業時間内の提出を求めており、そのために記載が単語や短文になることは否めないが、目標設定が十分でないと思われた。一方、諸言で述べたように薬学部生にとって、6年で卒業し、国家試験に合格するために1年次から自身の目標を明確にしていくことは重要であるので、前期終了時に近い本科目の第15週終了時（7月）にレポート課題として、第5週にグループワークまたは振り返りシートの課題とした「薬学部生に求められる資質」を「設問1. 薬剤師に必要な資質はどのようなことだと思いますか」とし、「在学中の行動目標」を「設問2. 設問1で必要だと思った資質を身につけていくために、ご自身はどのように行動していきますか」として、行動目標の設定状況を調査した。レポートでは設問毎に300文字以上を記載するように条件を設け、学生の考えを深く知ることができるように配慮した。回収したレポートを用いてKH Coder3（Version 3.01）による共起ネットワーク分析を実施した。この分析にも振り返りアンケートの分析と同様に232名のレポートを用いた。共起ネットワークは、文章や段落ごとで頻繁に使われている語句のペア、すなわち共起の程度が強い語同士を線で結び、単語間の繋がりを図で表現したものである（樋口耕一ら、2022）。共起ネットワークの作成における設定として、集計単位はH5、最小出現数は50、描画する共起関係は上位300とし、最小スパニング・ツリーだけを描画した。描画する際のSubgraphはmodularityで表示すると

もに、分けられた結果を解釈し、その内容を端的に示すようカテゴリー分けを行い命名した。命名する際には複数の教員で検討し、合意が得られるまで議論を重ねた。なお、データのクリーニングとして、設問1に出現した語句である「必要」は、頻出語である一方、共起ネットワークが散漫になることから除外する語句として指定した。また、同義で用いられている語句を出現回数の多い語句へ統一するための修正を行った。具体的には、「職業」を「仕事」に、「講義」を「授業」に、「大事」を「大切」に、「たくさん」を「多く」に、「バイト」を「アルバイト」に、「テスト」を「試験」に、「毎日」を「日々」に、「全て」を「すべて」に、「いろいろ」を「色々」に、「お話」を「話」に、「薬剤」を「医薬品」に、「さまざま」を「様々」に統一した。

3) 倫理的配慮

研究は、日本大学薬学部臨床研究に関する倫理審査委員会の審査、承認を得て実施した（承認番号：23-002）。本研究への参加は対象者の自由意思により決定され、同意しない場合においてもいかなる不利益を被ることがないこと、また自由意思により同意を撤回することができることを最終授業時に文書を配布して説明し、Google forms で同意を得た。251名の履修者のうち、232名から同意が得られた。

2 結 果

1) 授業振り返りアンケート結果

各週の有効アンケートの回収率は第1週 97.0% (225/232)、第2週 98.7% (229/232)、第3週 94.0% (218/232)、第4週 92.7% (215/232)、第5週 94.8% (220/232) であった。

第1週の振り返りとして「大学生としての在り方について理解し、説明することができますか」に対する回答は、「十分説明することができる」が58.2% (131/225) と最も高く、次いで「説明することができる」が37.3% (84/225) となった。また「本科目の意味や意義、位置付けについて理解し、説明することができますか」については、「十分に説明することができる」が60.9% (137/225) と最も高く、次いで「説明することができる」が34.2% (77/225) となった。どちらの設問も合計すると95.5%、95.1%となり、ほとんどの学生が大学生としての在り方や本科目の意味を理解し説明できると回答した（図1）。

第2週の振り返りとして「自身の大学への入学動機や理由について、適切に振り返ることができましたか」に対する回答は、「適切に振り返ることができた」が79.5% (182/229) と最も高く、次いで「ある程度は振り返ることができた」が19.2% (44/229) となった。また「本学の特色を理解し、説明することができますか」については、「他者に十分に説明することができる（理解も十分できている）」が59.4% (136/229)

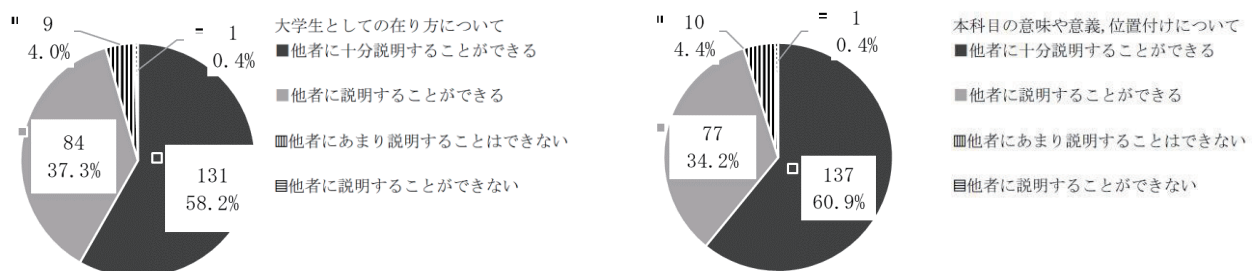


図1 第1週スタートアップの振り返りアンケート結果

(左) 大学生としての在り方について理解し、説明することができますか

(右) 本科目の意味や意義、位置付けについて理解し、説明することができますか

と最も高く、次いで「他者に説明することができる（ある程度の理解はできている）」が38.0%（87/229）となった。どちらの設問も合計すると98.7%，97.4%となり，ほとんどの学生が本学への入学動機の振り返りや特色の理解ができると回答した（図2）。

第3週の振り返りとして「日本大学のメリットを理解し，説明することができますか」に対する回答は，「他者に十分に説明することができる（理解も十分にできている）」が76.1%（166/218）と最も高く，次いで「他者に説明することができる（ある程度の理解はできている）」が23.4%（51/218）となった。また「在学中の大まかなビジョンを描くことができましたか」については，「十分に描くことができた」が63.1%（137/217）と最も高く，次いで「ある程度は描くことができた」が34.6%（75/217）となった。どちらの設問も合計すると99.5%，97.7%となり，ほとんどの学生が日本大学のメリットを理解し在学中のビジョンを描くことができると回答した（図3）。

第4週の振り返りとして「薬用植物園の特徴を理解し，説明することができますか」に対する回答は，「他者に説明することができる（理解が十分にできている）」が63.7%（137/215）と最も高く，次いで「他者にある程度説明することができる（ある程度の理解ができている）」が34.4%（74/215）となった。また「薬用植物園の施設・設備とその利用方法について理解することができましたか」については，「理解することができた」が74.0%（159/215）と最も高く，次いで「ある程度は理解することができた」が23.7%（51/215）となった。どちらの設問も合計すると98.1%，97.7%となり，ほとんどの学生が薬用植物園の特徴や施設の利用方法を理解していた（図4）。

第5週の振り返りとして「薬学部の特徴を理解できましたか」に対する回答は，「理解することができた」が90.0%（198/220）と最も高く，次いで「ある程度理解することができた」が10.0%（22/220）となった。また「卒業後のキャリアをイメージし，在学中の目標を具体的に設定することができましたか」について

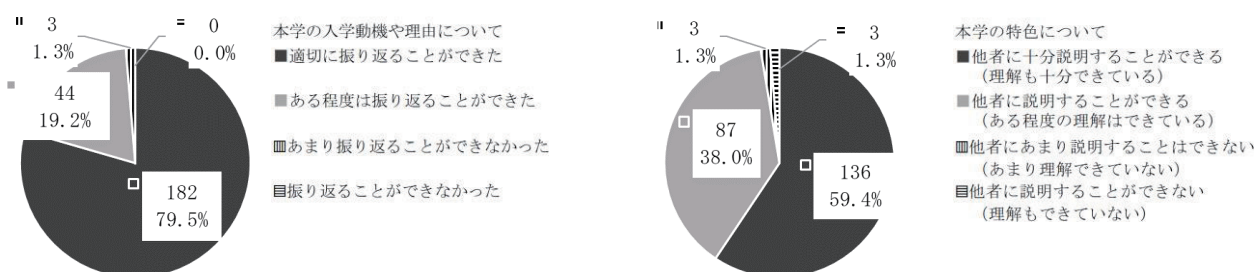


図2 第2週日本大学（本校の特色）を知る①の振り返りアンケート結果
（左）自身の本学への入学動機や理由について，適切に振り返ることができましたか
（右）本校の特色を理解し，説明することができますか

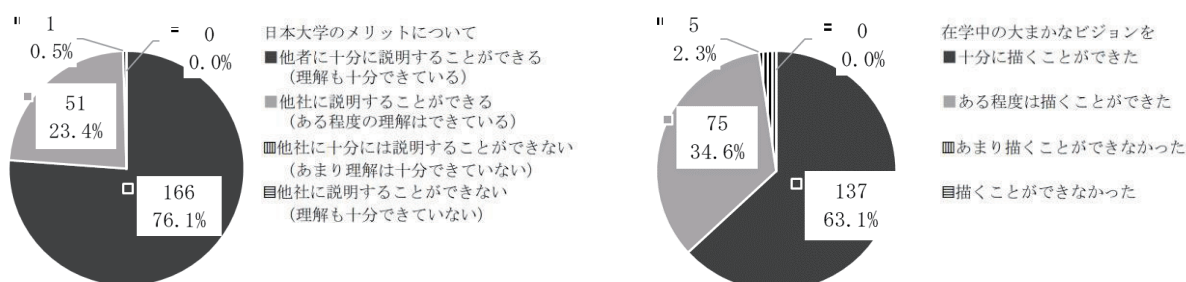


図3 第3週日本大学（日本大学のメリット）を知る②の振り返りアンケート結果
（左）日本大学のメリットを理解し，説明することができますか
（右）在学中の大まかなビジョンを描くことができましたか

は、「具体的に設定することができた」が68.6%（151/220）と最も高く、次いで「ある程度は具体的に設定することができた」が30.5%（67/220）となった。どちらの設問も合計すると100.0%，99.1%となり，ほとんどの学生が薬学部の特徴を理解し在学中の目標を設定することができると回答した（図5）。

TARGET1の振り返りとして，第5週終了時に実施した「薬学部の特徴を理解し，在学中の学びの意識を高めることができましたか」に対する回答は，「十分に高めることができた」が84.5%（186/220）と最も高く，次いで「ある程度高めることができた」が15.0%（33/220）となった。また「提示された事前学習や事後学習を実施しましたか」については，「ほとんどまたはすべて実施した（実施率は90%以上）」が87.7%（193/220）と最も高く，次いで「一部実施していない課題がある（実施率は60%～90%）」が11.4%（25/220）となった。どちらの設問も合計すると99.6%，99.1%となり，ほとんどの学生が学びの意識を高めることにつながっていた（図6）。

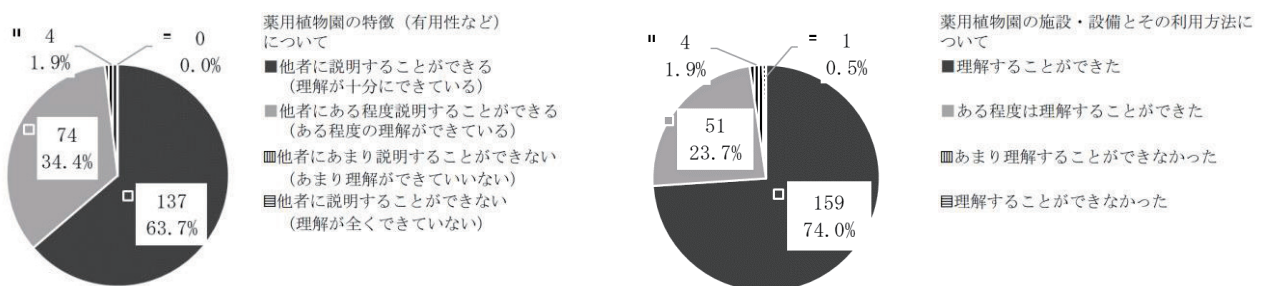


図4 第4週薬学部（薬用植物園について）を知る①の振り返りアンケート結果
（左）薬用植物園の特徴を理解し，説明することができますか
（右）薬用植物園の施設・設備とその利用方法について理解することができましたか

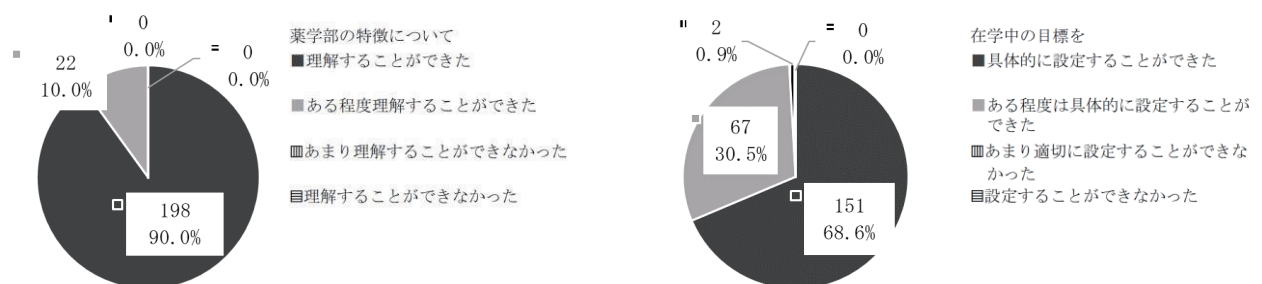


図5 第5週薬学部（学部の特徴）を知る②の振り返りアンケート結果
（左）薬学部の特徴を理解できましたか
（右）卒業後のキャリアをイメージし，在学中の目標を具体的に設定することができましたか

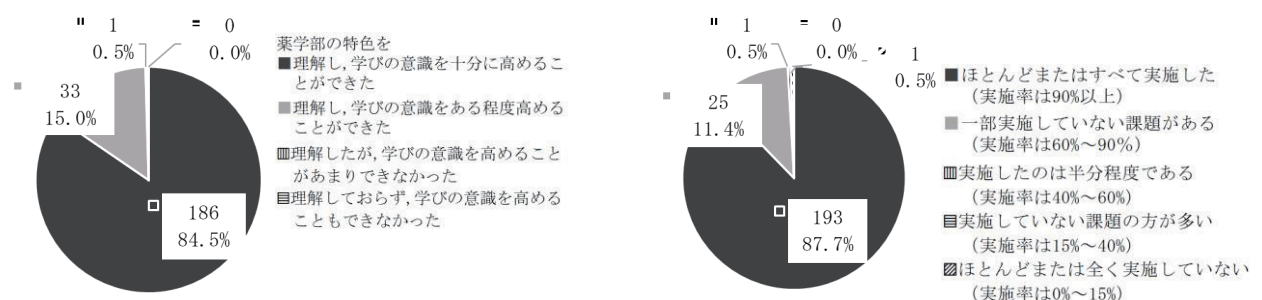


図6 TARGET1の振り返りアンケート結果
（左）薬学部の特徴を理解し，在学中の学びの意識を高めることができましたか
（右）提示された事前学修や事後学修を実施しましたか

2) レポートのテキストマイニング分析

有効回答率は94.4% (219/232) であった。設問1 についての回答者の全文章数は1,709, 総抽出語数（使用語数）は44,628 (17,517), 異なり語数（使用語数）は2,027 (1,661) であった。出現頻度の多い語（頻出語）は, 上位から「患者」「思う」「薬剤師」「コミュニケーション」「知識」「能力」「考える」「薬」「医療」「大切」であった（表3a）。作成した共起ネットワークは6つのSubgraphが表示された（図7a）。

表3a 設問1の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
患者	778
思う	614
薬剤師	569
コミュニケーション	409
知識	336
能力	335
考える	333
薬	329
医療	249
大切	223

表3b 設問2の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
思う	587
人	351
コミュニケーション	316
考える	294
身	284
自分	254
薬剤師	232
知識	230
能力	216
大切	172

【薬剤師としての責務】

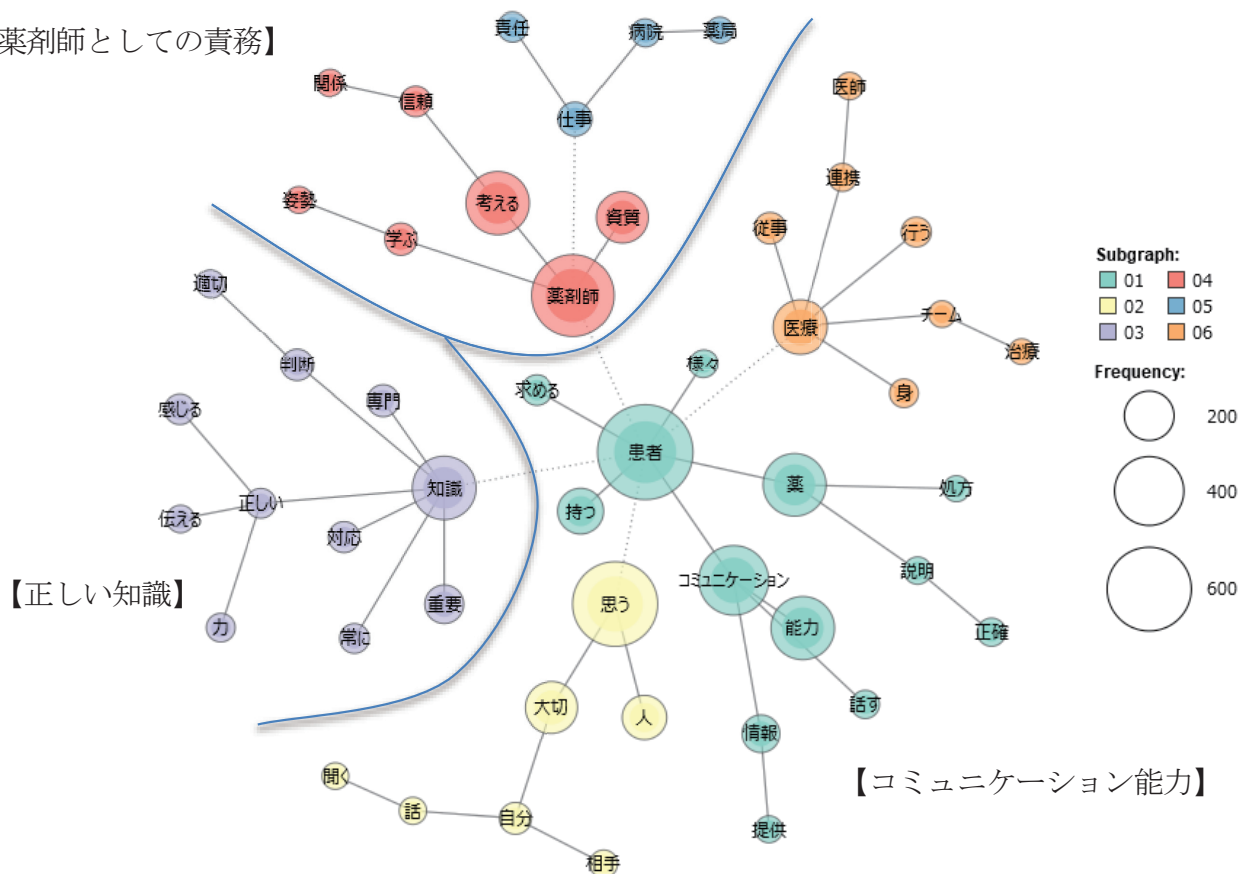


図7a 設問1「薬剤師に必要な資質はどのようなことがありますか」の回答の共起ネットワーク

【コミュニケーション能力をつける】

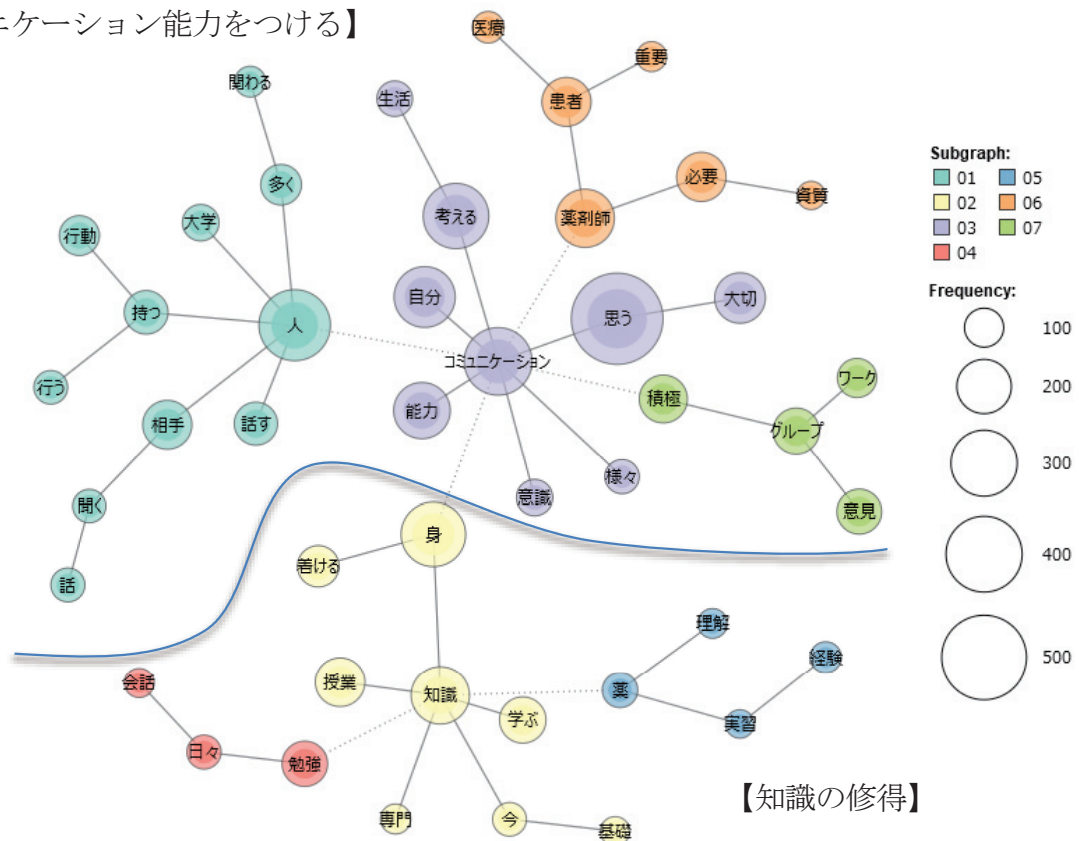


図7b 設問2「設問1で必要だと思った資質を身につけていくために、ご自身はどのように行動していきますか」の回答の共起ネットワーク

Subgraph01では頻出語である「患者」「コミュニケーション」「能力」「薬」を含んだ図となった。Subgraph02では頻出語である「思う」「大切」を含んだ図となった。Subgraph03では頻出語の「知識」から、「判断」「重要」「対応」「専門」「常に」「正しい」が共起した。Subgraph04では頻出語の「薬剤師」「考える」を含んだ図となった。Subgraph間では、「薬剤師」がSubgraph01の「患者」及びSubgraph05の「仕事」と共起した。Subgraph05では「仕事」から、「病院」「責任」が共起した。Subgraph06では頻出語の「医療」から「連携」「チーム」「従事」「行う」「身」が共起した。Subgraph間では最頻出語の「患者」を中心とした共起ネットワークが示され、「患者」と「薬剤師」「思う」「医療」「知識」が共起した。これらをまとめて、Subgraph01, 02, 06を【コミュニケーション能力】、Subgraph03を【正しい知識】、Subgraph04, 05を【薬剤師としての責務】として3つのカテゴリーとした。

設問2に関する回答者の全文章数は1,505、総抽出語数（使用語数）は45,404（17,652）、異なり語数（使用語数）2,200（1,823）であった。出現頻度の多い語（頻出語）は、上位から「思う」「人」「コミュニケーション」「考える」「身」「自分」「薬剤師」「知識」「能力」「大切」であった（表3b）。作成した共起ネットワークは7つのSubgraphが表示された（図7b）。Subgraph01では頻出語の「人」から、「多く」「大学」「持つ」「相手」「話す」が共起した。Subgraph02では「身」から「知識」「着ける」が共起した。Subgraph03では「コミュニケーション」から「思う」「考える」「自分」「能力」「意識」「様々」が共起した。Subgraph04では「勉強」「日々」「会話」から図が構成された。Subgraph05では「薬」「理解」「実習」「経験」から図が構成された。Subgraph06では頻出語の「薬剤師」から「必要」「患者」が共起した。

Subgraph07 では「積極」から「グループ」が共起した。Subgraph 間では頻出語の「コミュニケーション」を中心として、「薬剤師」「人」「身」「積極」が共起した。これらをまとめて Subgraph01, 03, 06, 07 を【コミュニケーション能力をつける】、Subgraph02, 04, 05 を【知識の修得】として2つのカテゴリーとした。

3 考 察

初年次教育に盛り込むべきとされる8つのカテゴリー（スタディースキル、スチューデントスキル、オリエンテーションガイダンス、専門教育への導入、学び全般への導入、情報リテラシー、自校教育、キャリアデザイン）が、2008年の大学教育学会第30回大会において示されている（内海美保ら、2020）。「自主創造の基礎」は、これらの8つの要素のほとんどを含んでおり、TARGET1においては、「日本大学を知る①、②」の授業を通して入学動機を振り返り、日本大学のメリットを理解した上で大まかなビジョンを描く構成となっている。TARGET1の振り返りとして、「在学中の学びの意識を高めることができましたか」との設問では、「十分に高めることができた」と84.6%の学生が回答し、「ある程度高めることができた」との回答も合わせると99.6%となり（図6）、本科目が学修の動機づけに寄与していることが示唆された。第5週の振り返りにおいても、卒業後のキャリアをイメージして在学中の目標を具体的に設定することに関して、「在学中の目標を具体的に設定することができた」68.6%、「ある程度具体的に設定することができた」30.5%と、ポジティブな回答となり、大部分の学生は、卒業後のキャリアをイメージして在学中の目標を具体的に設定することができたことになる。授業中の振り返りでは、第5週に「薬学部生に求められる資質」と「卒業後のキャリアプラン」についてワークシート及び振り返りシートへの自由記載も求めていたが、その回答の記載は、在学中の目標をある程度以上設定できたと回答した学生の意識とは乖離して、明確なビジョンとは言い難いものであった。シートは、授業時間内の提出を求めており、そのために記載が単語や短文になったことは否めないが、そのことよりも、第5週終了時には、目標設定が十分でないために明確なビジョンを示すことができなかったと思われる。

そこで、本科目終了時に方法に示したように2つの課題についてレポートを課し、在学中の行動目標を設定できたかを調査するとともに共起ネットワーク分析を実施した。

薬剤師に必要な資質（設問1）の回答の共起ネットワーク（図7a）は、大きく3つのカテゴリーに分類された。【薬剤師としての責務】に該当する回答の頻出語を軸にまとめると「薬剤師は、患者と信頼関係を築き、症状や薬物治療に関する情報を理解し指導するため、学び続ける姿勢が必要である。」となり、1年生前期終了時の学生にとっては、十分に理解できていると評価できる内容と思われる。【正しい知識】に該当する回答は「患者に適切に対応するため、専門的な知識を常にアップグレードしていくことが重要である。」という内容が語られていた。【コミュニケーション能力】に関しては「薬剤師は医療チームと連携して治療を行うため、患者から様々な情報を得ること、及び患者に情報を提供するためのコミュニケーション能力が必要である。」とまとめることができた。「薬剤師」、「知識」及び「患者」はSubgraphが異なるが、共起している点や共起ネットワーク図が「患者」を中心に展開されていることを踏まえると、3つのカテゴリーの全ての焦点は患者に置かれていると考えられた。2015年に「患者のための薬局ビジョン」が厚生労働省（2020）から示され、現在の薬剤師業務は、患者中心の形態に変換されつつあるが、今回の結果（表2a、図7a）は、1年次前期終了時には多くの学生がこれに沿った考えを想起できていることを示すものと考えられた。ほとんどの学生の記述は具体的で薬学生としてのアイデンティティの芽生えが表出しており、「自主創造の基礎」の第5週目の内容を超えていた。したがって、【薬剤師としての責務】に関しては、「自主創造の基礎」の第4週～5週の学びだけではなく、1年生前期に設置している複数の科目で学んだことの総合的な結果である

と考えられた。特に、図7aの【コミュニケーション能力】にある「チーム」「医療」「連携」等の言葉の表出には、薬剤師として、適切な態度や薬学的思考を身につけるために薬局、病院、介護施設訪問等を実施する科目である「早期臨床体験」での学びが少なからず影響を及ぼしていると推察された。

設問2の共起ネットワーク（図7b）は、大きく2つのカテゴリーに分類され、【コミュニケーション能力をつける】に該当する回答をまとめると「薬剤師に必要な資質としてコミュニケーション能力を身につけるために、グループワークにおいては積極的に発言し、大学内においては色々な人と関わり相手の話を聞き、コミュニケーションをとっていきたい。」となった。1年次の時点で行えることとして、コミュニケーションにおいては大学内外のグループワークで頑張りたいという記述が見受けられた。薬学教育において学生にはコミュニケーション能力の醸成が求められており（有田悦子，2020，武隅洋ら，2018），平成25年度改訂版薬学教育モデル・コアカリキュラム及び令和4年度改訂版，薬学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省，2013，2023a）においても「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の1つにコミュニケーション能力が組み入れられている。そのことを1年次の学生自らが理解し、自身の行動目標として取り入れている点は、初年次カリキュラムの有用性が示唆される結果となった。【知識の習得】では、「基礎」「今」「授業」等の語句が抽出され、「薬学に関する専門的な知識を身につけるため、日々の勉強を継続していきたい。」という趣旨の回答が多く得られた。1年生前期には、「自主創造の基礎」のほか、「早期臨床体験」のように薬剤師の職能に直結する科目も配置されているが、ほとんどは、疾患や治療薬を学ぶ前段階となる基礎学力を養う科目である。図7bに示したように、学生には、1年生に求められる基礎的知識の修得に向けたモチベーションの向上がはっきりと現れていたが、これには、「自主創造の基礎」の第1～5週までの学びが寄与していると思われた。

第15週終了時のレポートは、第5週終了時の記載よりも明らかに充実したものであり、それらのテキストマイニング分析において、学生が、薬剤師に必要な資質を考えて在学中の行動目標を設定していることが確認された。第15週終了時のレポートは、きちんと記載するように提出までの時間や字数を設定したが、記載内容が充実したのは、前期の学びによる学生の成長が大きく寄与していると考えられた。「自主創造の基礎」において、在学中の目標やキャリアプランを立てることは、TARGET1の到達目標で、ガイドラインでは第5週終了時に目標を立てることになっている。本研究結果は、薬学部生においては、TARGET1終了時（5月中旬）には不十分な目標しか立てることができず、前期終了時（7月中旬）になって、充実した内容の目標が立てられることを示したが、目標設定において、このような5月と7月の違いが、多くの学部で認められるか否かは興味深い。多くの学部で、このような違いが認められるなら、第15週終了時に、今回のような振り返りをするのは有用となるであろう。その際には、学生が自身の意見をきちんと記載するように期限や字数に配慮することも必要である。1年前期終了時に、学生それぞれが、改めて行動目標を見直すことは、その後の学生生活をより充実させるために学生にとっても、貴重な機会になると思われる。薬学部生の行動目標の充実には、ほとんどの学生が同時期に受講している「早期臨床体験」をはじめとする他科目が寄与すると推測されたが、科目間の関連性の詳細については、今後の課題である。

Kolb（1984）は、自己省察を促すフィードバックが専門職のアイデンティティ形成につながると述べている。本科目において、毎週、振り返りシートを記載して自己省察を繰り返す取り組みは、自己省察の習慣付けにつながり、専門職である薬剤師のアイデンティティ形成にも、良い影響を与えられ、今後も継続していくべきと思われた。毎時間の振り返りは、時間の制限等、制約も多いが、その中で可能な限り、有効な振り返りができるような工夫をしていきたい。

これらをまとめて考えると、毎時間の振り返りや終了時の科目全体の振り返り（第15週）により、省察の習慣をつけていくことは重要であり、今後も継続すべきであるが、それに加えて、全体の授業終了時（前期終了時）に大学生活の具体的な目標設定について、一定の文字数以上の記述をさせることは、個々の学生

のその後の学生生活に有用であるとともに、「自主創造の基礎」の充実にも資すると考えられた。

結 語

本研究により、「自主創造の基礎」は、日大生及び薬学生としてのアイデンティティ形成に寄与し、学生それぞれの入学後の目標設定の一助になったことが明らかとなった。

謝 辞

英文校正に際し、ご協力をいただきました Eric. M. Skier 准教授に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 有田悦子 (2020), 「なぜ薬剤師にヒューマニティ教育が必要なのか? ～医療人教育の立場から～」『薬学雑誌』 第 140 巻 3 号, 411-414 ページ.
- 樋口耕一・中村康則・周景龍 (2022), 『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング』 ナカニシヤ出版.
- Kolb D. A. (1984), “Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development”, Prentice Hall, New Jersey, 20-38.
- 文部科学省 (2013), 「薬学教育モデル・コアカリキュラム 平成 25 年度改訂版」(平成 25 年 12 月 25 日) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/058/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2014/11/10/1352956_2.pdf (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 文部科学省 (2020), 「教学マネジメント指針」(令和 2 年 1 月 22 日) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 文部科学省 (2022), 「令和 4 年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(令和 6 年 10 月 11 日) https://www.mext.go.jp/content/20241011-mxt_daigaku01-000038093_1.pdf (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 文部科学省 (2023a), 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム 令和 4 年度改訂版」(令和 5 年 3 月 15 日) https://www.mext.go.jp/content/20230227-mxt_igaku-100000058_01.pdf (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 文部科学省 (2023b), 「薬学部における修学状況等 2023 年(令和 5 年)度調査結果」(令和 5 年 5 月 1 日) https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/1361518.htm (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 日本大学 (2017), 「学生と向き合う。“日本大学教育憲章”制定で「日本大学マインド」を持った学生の育成を目指して」(平成 29 年 4 月 1 日) <https://www.nihon-u.ac.jp/uploads/files/20180926120927.pdf> (2024 年 10 月 17 日アクセス)
- 日本大学 (2023), 『日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎」ガイドライン第 3 版』 <https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/first-year-seminar/> (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 日本大学 (2024), 薬学部 6 年制学科における修学状況(令和 6 年 5 月 1 日) <https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/education/> (2025 年 3 月 4 日アクセス)
- 武隅洋・森綾子・小林正紀・山田優磨・佐藤夕紀・鳴海克也・古堅彩子・菅原満 (2018), 「薬学実務実習前後における薬学生のコミュニケーション分析～Roter method of interaction process analysis (RIAS) を用いて～」『薬学雑誌』 第 138 巻 12 号, 1579-1586 ページ.

内海美保・大西弘高・山岡由美子（2020）,「6年制薬学教育における初年次教育の新しいカテゴリー：振り返りシートを用いたライフスキルの解析」『医療職の能力開発』第1巻1号, 27-34 ページ.

渡邊洋子（2007）,「成人教育学の基本原理と提起—職業人教育への示唆—」『医学教育』第38巻3号, 151-160 ページ.

渡邊洋子・藤本眞一・柴原真知子・大滝純司（2018）,「医学生のための自己主導型学習—医学部入試と初年次教育を架橋するために—」『奈良医学雑誌』第69巻1・2・3号, 27-42 ページ.

